

鴨川（三条大橋南側）における夜間景観づくりの実証実験について （結果報告）

第63回鴨川府民会議 令和6年3月13日
京都市都市計画局都市景観部景観政策課

取組の背景

夜間景観づくり

市民や事業者の皆様との協働による**魅力的な夜の景観づくり**により、新たな価値の創造、地域の活性化や生活の豊かさの向上を目指してきた。

鴨川の魅力向上に向けたまちづくり

令和5年8月に行われた「京都市長と京都府知事との懇談会」にて、**鴨川の魅力向上に向けたまちづくり**を進めるため、三条～四条間で、公民連携による社会実験などに取り組んでいくことが確認された。

現状の鴨川（三条大橋周辺）



三条大橋右岸南側（昼間）



三条大橋右岸南側（夜間）

実験概要

実験目的

- 照明デザインによる京都ならではの夜間景観の創出
- 鴨川の魅力の更なる向上

実験内容

■場所

鴨川 三条大橋南側

■日時

令和6年1月16日（火）～ 令和6年1月22日（月）
午後6時～午後10時

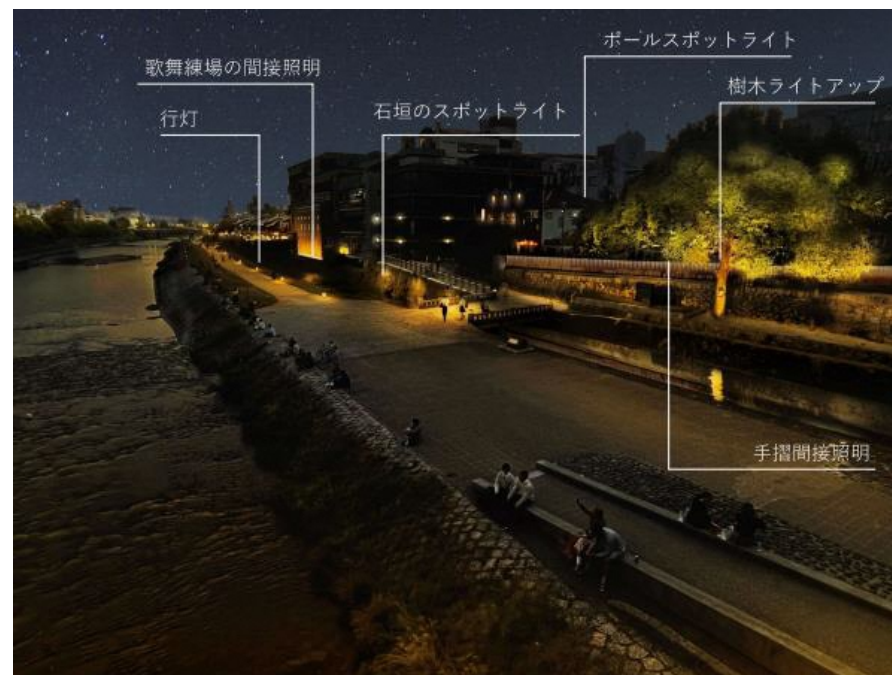


実験概要

イメージパース



左岸

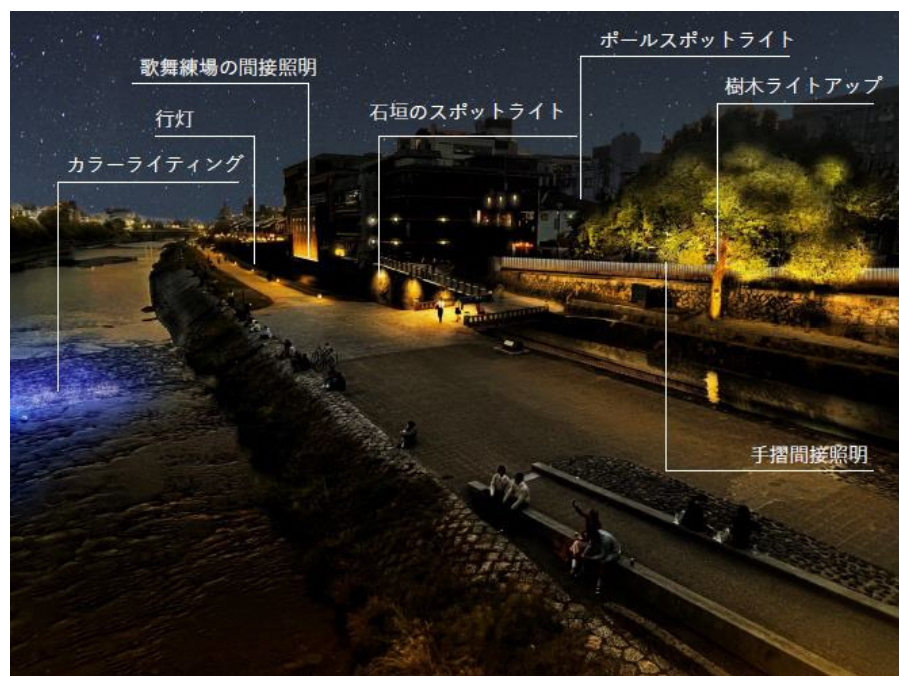


右岸

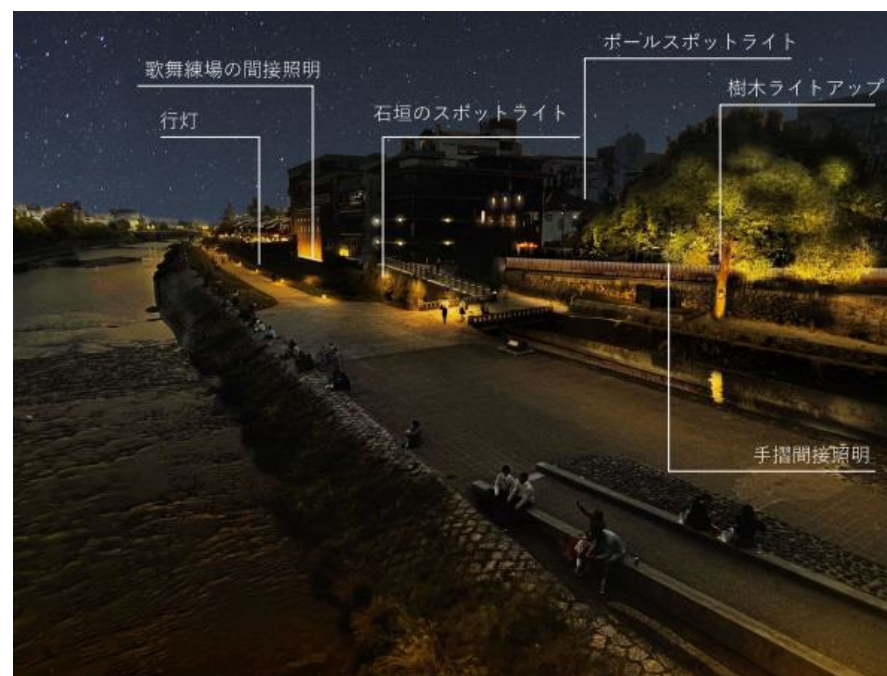


実験概要

イメージパース



右岸（カラーライトあり）



右岸（カラーライトなし）



実験概要

調査検証

○ごみの不法投棄の状況

現状課題となっているごみの不法投棄の状況に与える影響について調査する

○野鳥の動向調査

鴨川の生態系に配慮し照明設備が鳥類の動向に与える影響を調査する

○利用者の動向調査

照明による夜間の魅力向上が利用者の動向に及ぼす影響を調査する

○アンケートによる印象調査

照明デザインによる景観創出が鴨川の魅力の向上につながるか調査する



実験状況



右岸から見る左岸



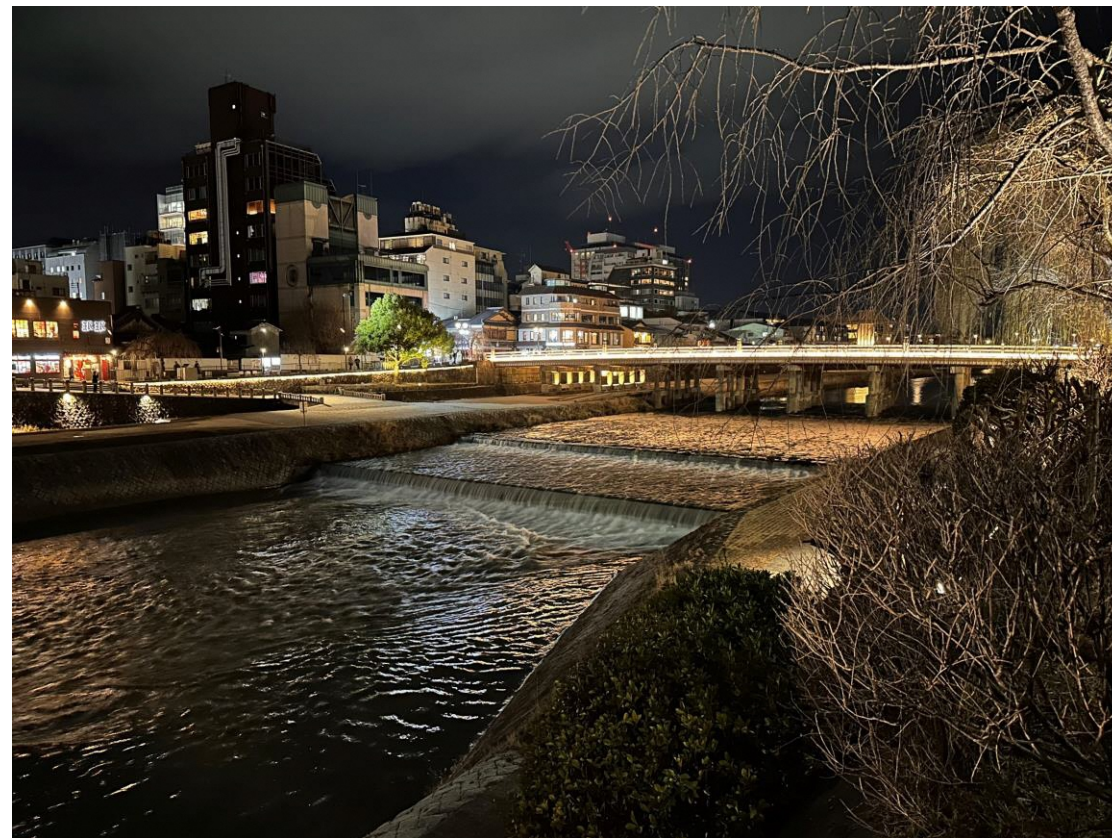
三条大橋から見る右岸



実験状況



三条大橋から見る鴨川と両岸



左岸から見る右岸



実験状況



三条大橋から見る鴨川と両岸（カラーライト）



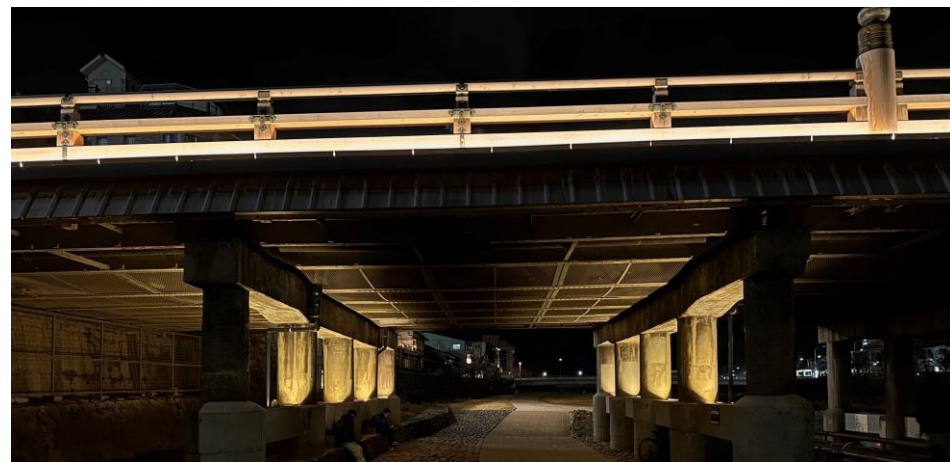
左岸から見る右岸（カラーライト）



実験状況



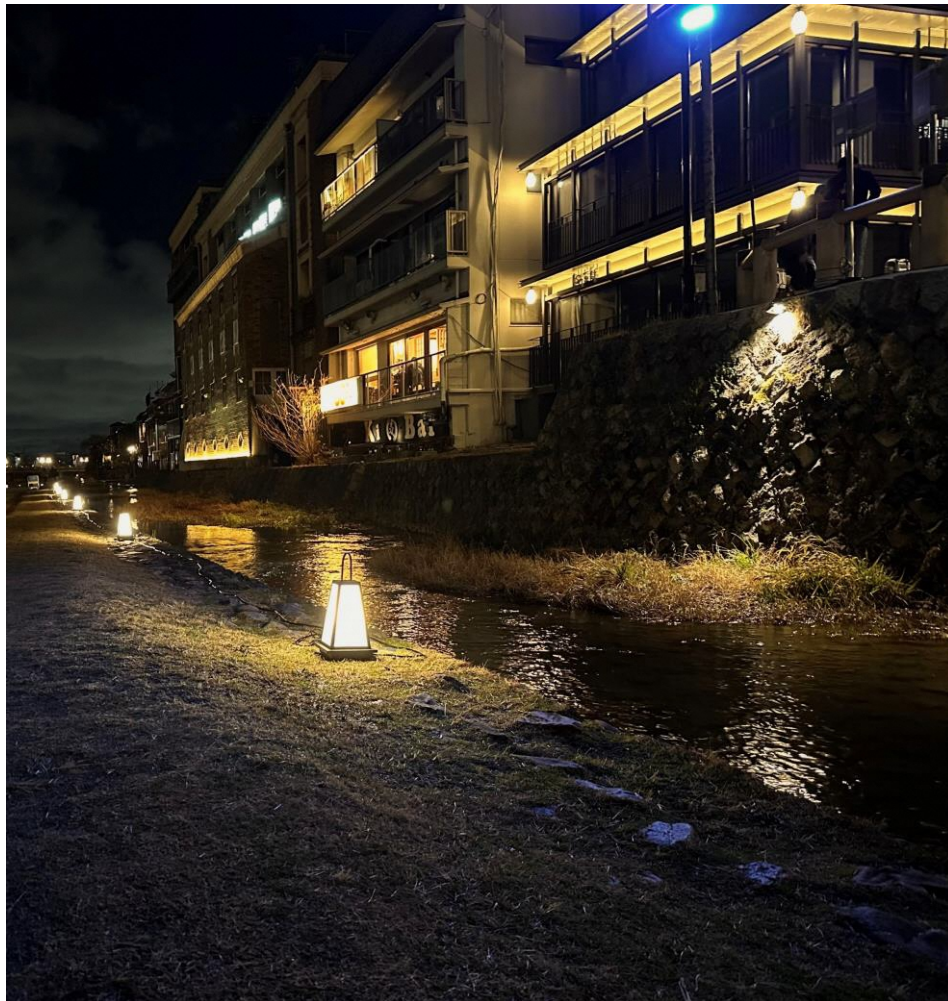
右岸スロープ



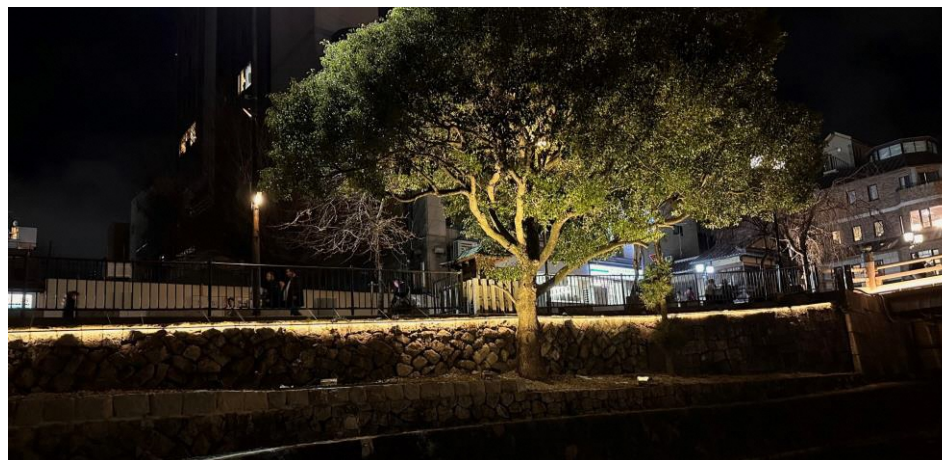
左岸橋脚（上） 右岸橋脚（下）



実験状況



右岸行灯

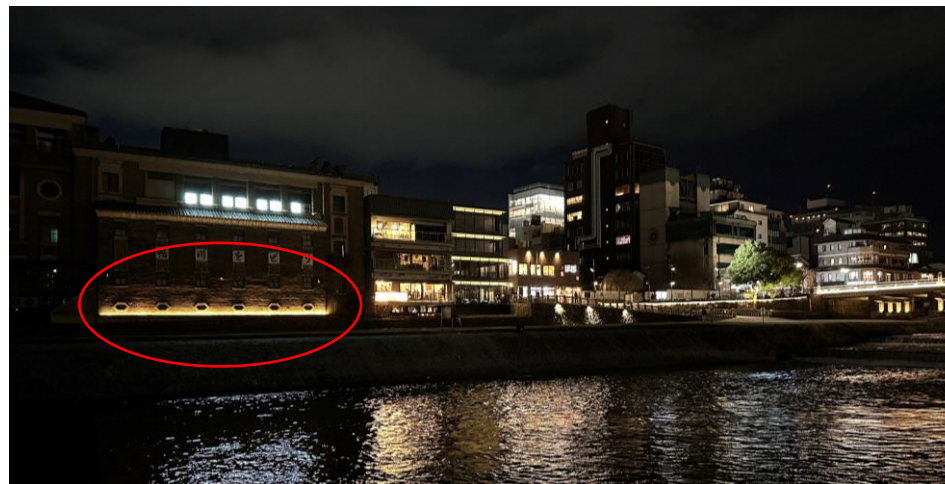
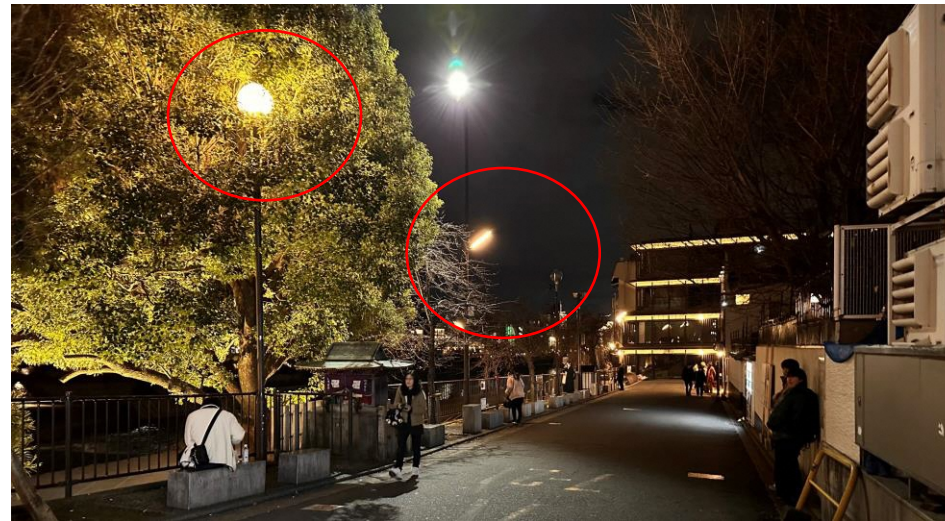


右岸みそそぎ川の橋（上）右岸石垣（下）



実験状況

近隣施設の電球の色温度の変更等（電球色への変更）



三条小橋商店街の街灯（上）京阪出入口（下）

弥次喜多前道路照明（上）先斗町歌舞練場（下）

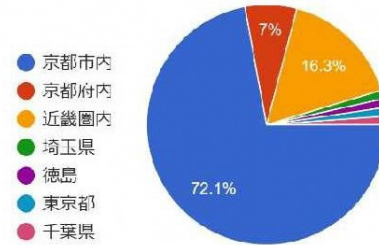


調査結果

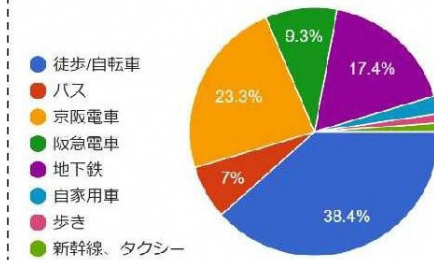
アンケート結果

- **86件の回答**が得られた。
- 京都市内からの来訪者の回答が70%を超えた。
- 利用目的は散歩と通行が約40%ずつ、観光が約10%であった。
- 印象は「とても良い」50%、「よい」30%、「悪い」11%であった。
- 回答者の属性による傾向は認められなかった。

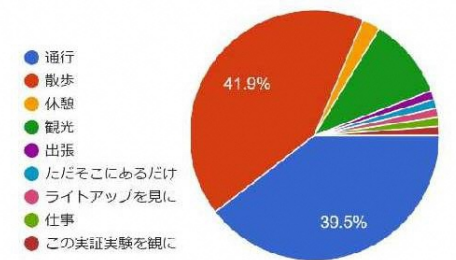
Q1 どちらから来られましたか？
86件の回答



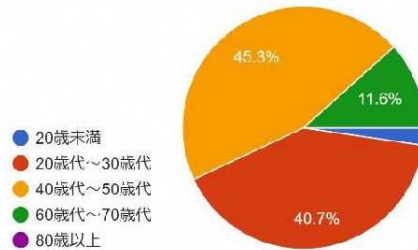
Q2 鴨川への交通手段を教えてください
86件の回答



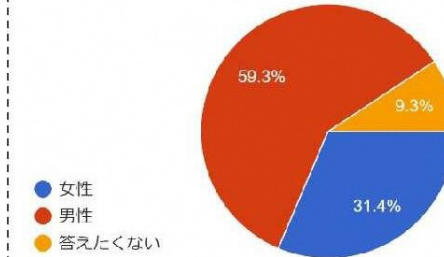
Q3 鴨川の主な利用目的を教えてください
86件の回答



Q4 あなたの年代を選択ください
86件の回答

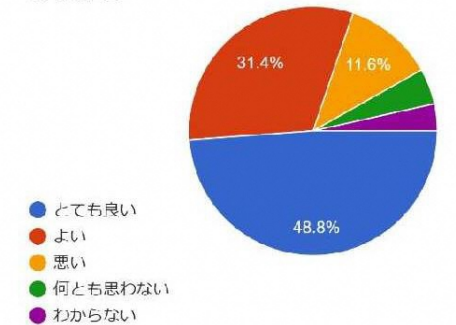


Q5 あなたの性別を選択ください
86件の回答



本日の鴨川のライトアップについてご回答ください。

Q6 普段に比べてどんな印象ですか？
86件の回答



(アンケート集計結果の一部抜粋)



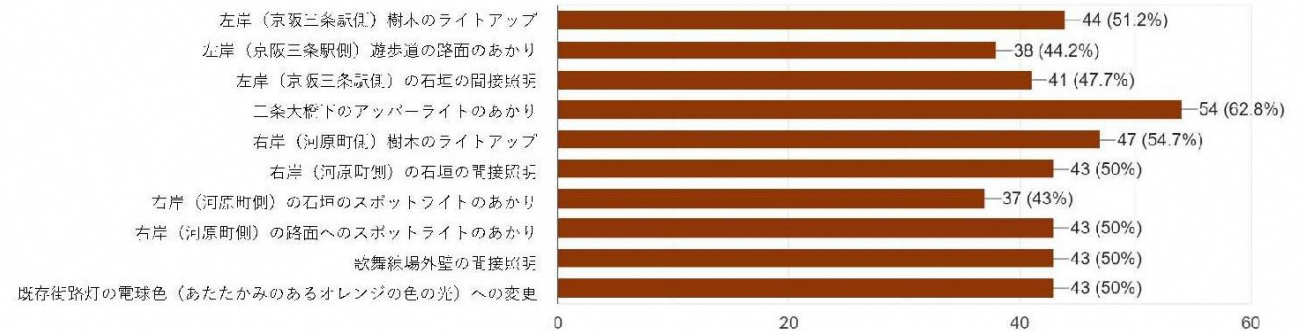
調査結果

アンケート結果

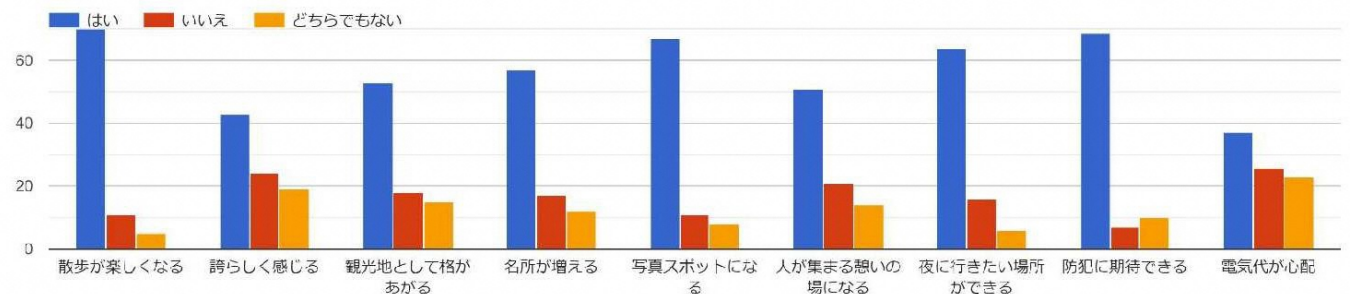
- 魅力を感じた部分は、「橋脚」が最も高く60%超、次いで「樹木」の54%だった。その他も概ね50%前後であった。
- 期待できる効果では、「散歩が楽しくなる」「夜に行きたい場所が増える」「防犯に期待できる」などが60%を超えた。
- 自由記述の回答は49件得られた
- 回答は好意的なものから批判的なものまで様々あった。

(例) ライトが明るすぎる、もっと明るくすべき、青い照明は相応しくない、青い照明がいい、デザインを検証すべき……など

Q8 どこが魅力的だと感じましたか（複数回答可）



Q9 ライトアップで期待できる効果について、どのように思いますか？



(アンケート集計結果の一部抜粋)

調査結果

利用動向調査

調査日時

- 実験期間中/平日：令和6年1月17日（水）18:00～22:00
- 実験期間中/休日：令和6年1月21日（日）18:00～22:00
- 実験期間外/平日：令和6年1月25日（木）18:00～22:00
- 実験期間外/休日：令和6年1月27日（土）18:00～22:00

調査場所

- 三条大橋南側（鴨川右岸の遊歩道周辺）

調査内容

- 歩行者通行量調査
鴨川河川敷への通行量を調査し人々の回遊行動の変化を把握する
- 滞留人員調査
滞留人数やアクティビティを調査し影響や効果を検証する



調査結果

利用動向調査

■ 通行量調査の位置



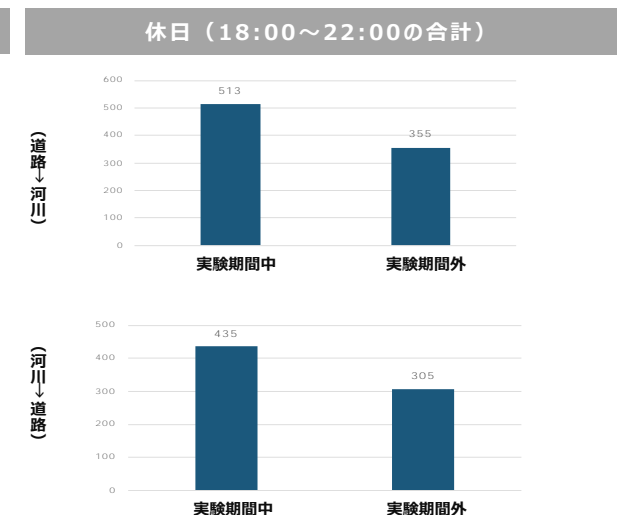
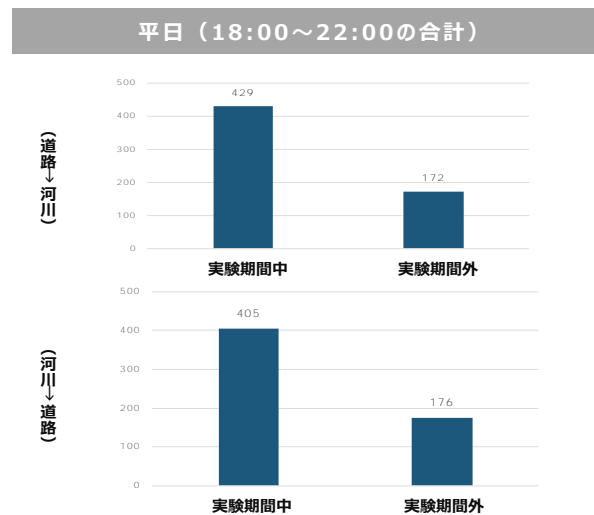
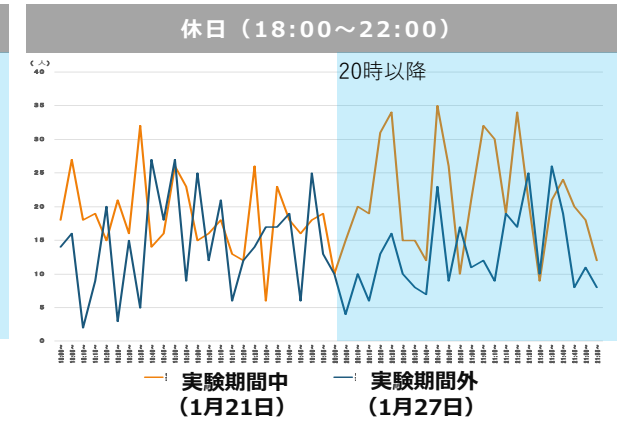
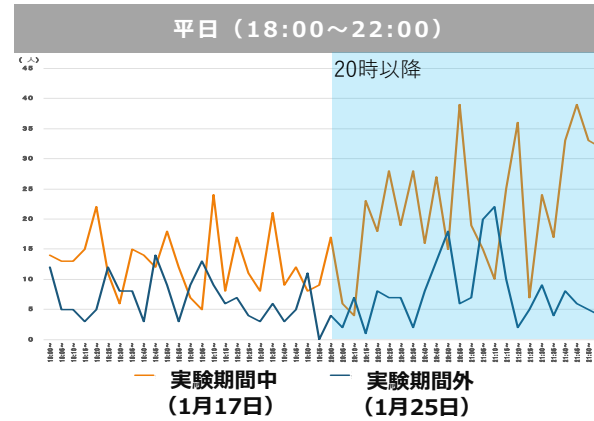
■ 滞留調査のエリア



調査結果

通行量調査の結果

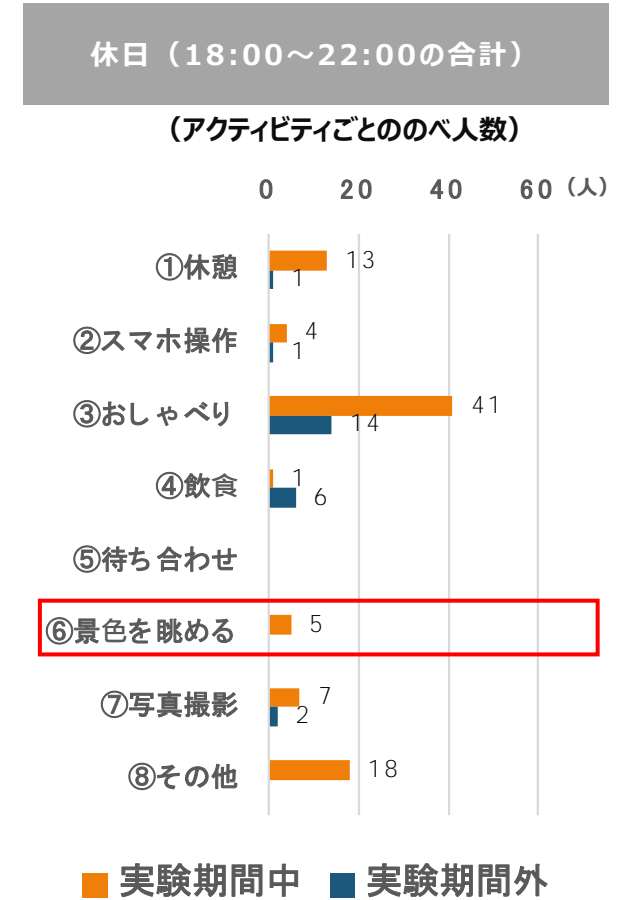
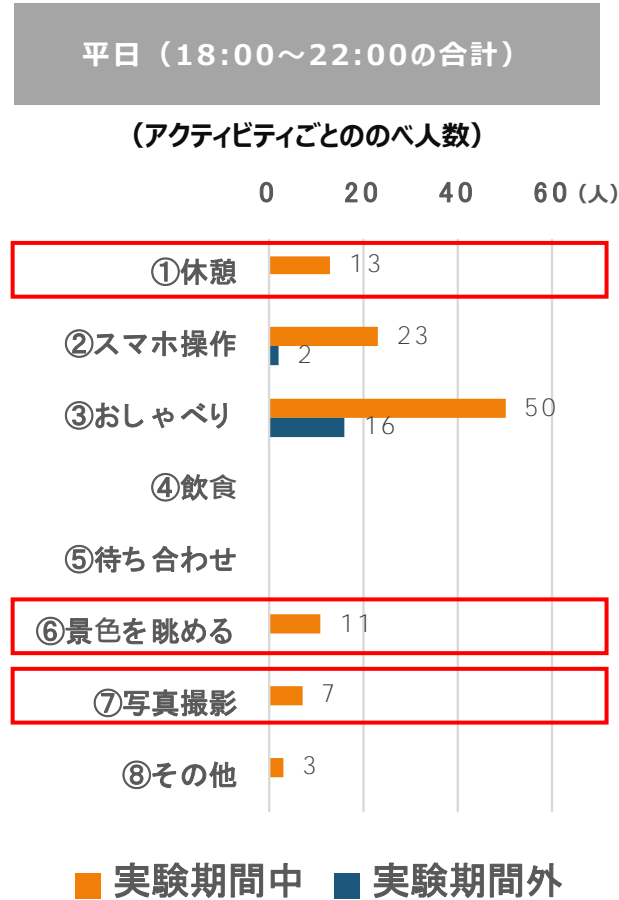
- 実験期間の通行量は期間外に比べ平日で約2.3倍、休日で約1.4倍となった。
- また、時間帯が遅いほど、通行量が増える傾向があった。
- 平日、休日ともに、実験期間中は、道路から河川への通行量が多く、河川敷への誘導に加え、河川敷から別の場所への誘導が図られたと考えられる。
- 実験期間の方が明らかに通行量が増加しており、照明設置による効果があったと考える。



調査結果

利用動向調査

- 滞留人数は実験期間中の方が多い傾向が見られ、平日、休日ともに、実施期間中の行動として「景色を眺める」が出現した。
- また、平日は、「休憩」や「写真撮影」の行動も出現した。
- 属性については、実験中に家族連れの属性が出現したものの、全体としては属性の多様化はなかった。
- 実験期間外に比べて、期間中の方が滞留数が増加したことにより、行動に多様性が出現したと考える一方、属性については、そこまで変化は生じなかった。



調査結果

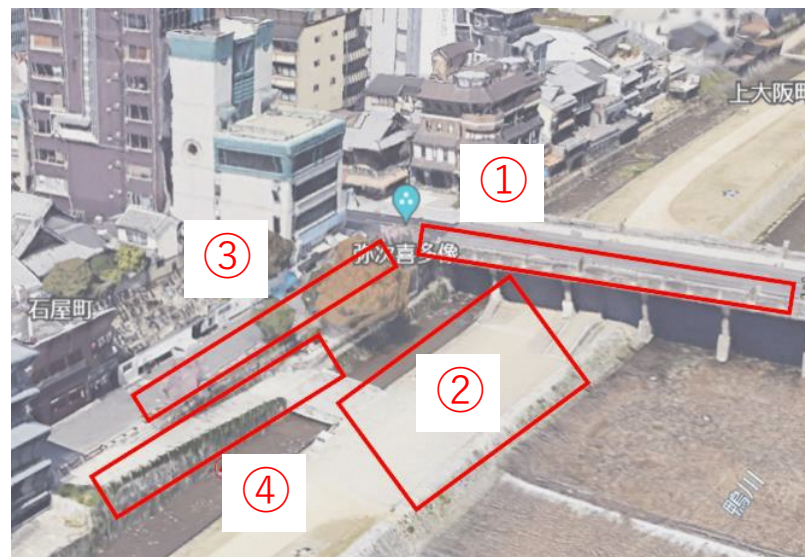
利用動向調査 ※立命館大学都市地域デザイン研究室の調査記録による

滞留者の調査範囲

- ①三条大橋南側歩道
- ②鴨川河川敷（右岸）
- ③右岸道路区域
- ④右岸スロープ

調査日時

- 令和6年1月17日（水）18:00～21:00
- 令和6年1月18日（木）18:00～21:00
- 令和6年1月20日（土）18:00～21:00
- 令和6年1月21日（日）18:00～21:00
- 令和6年1月22日（月）18:00～21:00



- 4つのエリアの滞留人数は、**①が一番多く**、次いで②③④の順との事である。
- 行動としては**写真撮影が最も多く**次いで会話が多いとされている。
- 前述の滞留調査の結果と合わせると、**橋の上での写真撮影が多い**ことがわかる。

調査結果

ごみ投棄状況の調査

調査方法

- ごみ回収量の比較調査
実験実施時及び平常時にごみ回収を行い、回収量を比較する。
- 投棄エリア等の調査
右岸と左岸で別々に回収量を記録し、また投棄されやすい場所を把握する。

調査日時

- 実験期間中： 令和6年1月16日～1月22日 21:30～22:00
- 実験期間外： 令和6年1月25日、28日 21:30～22:00

調査場所

- 三条大橋南側 両岸（河川区域及び道路区域）



調査結果

ごみ投棄状況の調査

- 基本的に右岸の量が左岸を上回る。
- 回収量は雨天時は減少する。
- 実験期間中と期間外で大きな差はなかった。
- 冬季においては、ごみの量と照明による夜間景観の創出との関係性は薄いと考えられる。
- 利用動向調査と合わせると、実証実験により増加した利用者によるごみの投棄は軽微と考えられる。

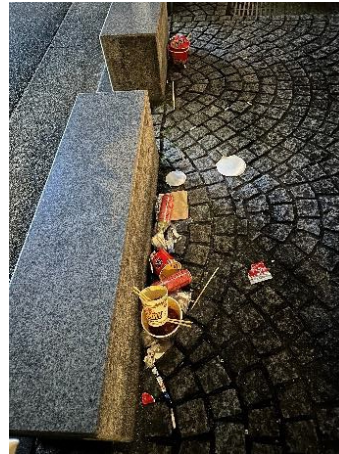
日付 曜日	天気／ 最高気温／最低気温	左岸 回収量	右岸 回収量	特記
1/16 火	曇り／ 5.8℃／1.6℃	1割量	10割量 (満量)	
1/17 水	晴れ／ 11.4℃／-0.4℃	2割量	8割量	
1/18 木	雨／ 8.9℃／5.8℃	1割量	5割量	
1/19 金	曇り／ 12.5℃／8.2℃	2割量	7割量	別団体による回収活動あり
1/20 土	雨時々曇り／ 11.3℃／5.2℃	2割量	5割量	
1/21 日	雨のち曇り／ 13.9℃／10.6℃	2割量	10割量 (満量)	
1/22 月	曇り／ 14.0℃／7.0℃	3割量	8割量	
1/25 木 (期間外)	雪のち曇り／ 5.0℃／-0.5℃	8割量 (2割量)	7割量	括弧内値は車道内のゴミを除く量
1/28 日 (期間外)	晴れ時々曇り／ 9.9℃／1.2℃	2割量	8割量	別団体による回収活動あり

※回収量は20L袋による換算値

調査結果

ごみ投棄状況の調査

- 右岸のゴミの大半は道路内の石のベンチ付近に投棄されたものである。
- 橋の下は少ないが、飲み物のゴミが不定期で確認できた。
- 左岸はごみの量は少ないが、京阪の出入口付近は吸い殻が多く確認された。
- 右岸スロープ下の擁壁上のごみは、実験期間外のみ確認された。



右岸道路ベンチ



右岸道路ベンチ



橋下



擁壁上



1/17 左岸



1/17 右岸

調査結果

鳥類の動向調査

調査方法

- 活動状況確認
実験エリア付近の鳥類の動向について目視により調査する。

調査日時

- 令和6年1月19日 18:00～19:00
- 令和6年1月21日 18:00～20:00

調査場所

- 三条大橋周辺（右図赤枠）



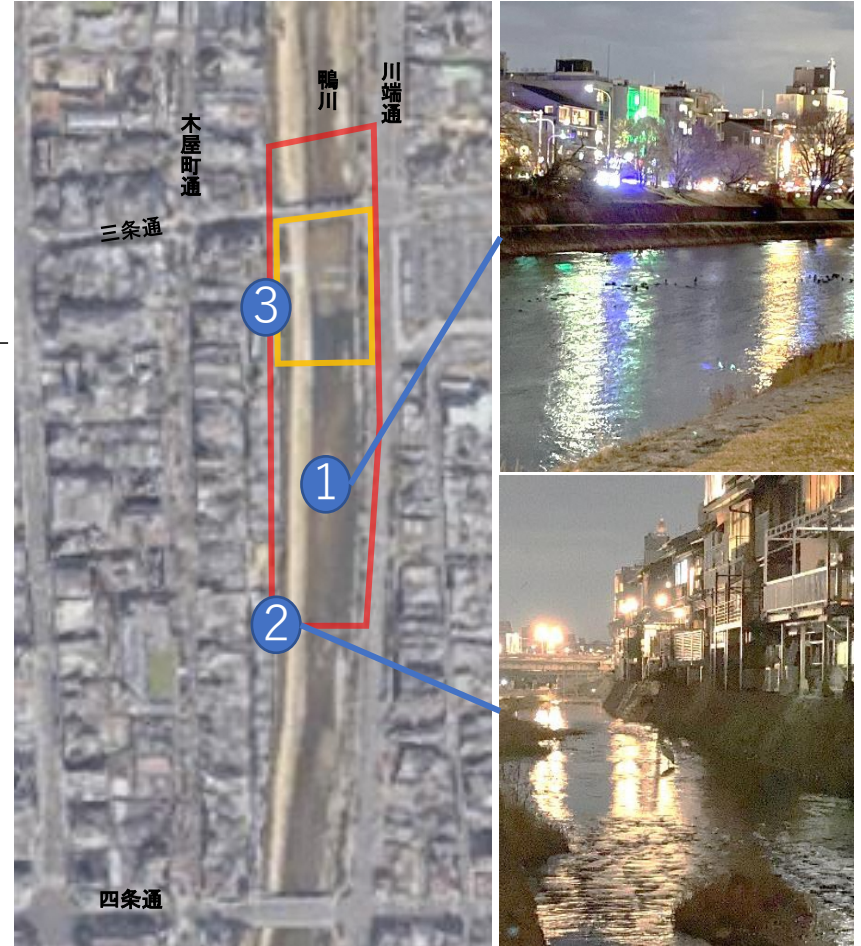
調査結果

鳥類の動向調査

- 右図①のエリアにカモが多いが、照明点灯による動向の変化は認められなかった。
- 右図②③のエリアではアオサギが確認されたが、照明点灯による動向の変化は認められなかった。
- 1時間に数回程度、三条大橋上空を南へ飛越する鳥が確認された。
- 周辺の樹木にムクドリが集まっている形跡は認められなかった。
- 鳥類の動向について、本実験の影響は認められなかった。

■令和6年1月19日の記録

- 点灯前から、浅瀬（三条四条間）に①カモの集団、三条大橋北側にカモ2羽、みそそぎ川四条寄りに②アオサギ1羽を確認。点灯時、点灯後も動きに変化なし。
- 18時30分頃 三条大橋上空をカモ？が1羽南向きに通過するのを確認。
- 19時頃 三条大橋上空をゴイサギが1羽南向きに通過するのを確認。
- 樹木にムクドリは確認できず。



調査結果

総括

- 実験期間内の通行量や滞在者数増加が確認でき、アンケート調査においても好評価が約8割に至ることから、**照明設備による景観創出は、鴨川の夜間の魅力向上に一定効果がある**と考えられる。
- 一方、アンケート調査では多くの意見が寄せられていることから、**懸案事項への対応やデザイン等の手法について十分な検討が必要**と考える。

今後の課題

- 今後の課題として、各種影響の詳細な検証を行うためには、季節による動向の変化も考慮し、より長期の実験による調査を行う必要がある。



令和6年度 京都市予算案 事業概要

都市計画局

事務事業名	鴨川魅力向上プロジェクト		
予算額	25,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	まち再生・創造推進室(222-3503)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>鴨川は、悠久の歴史の中で千年の都と京文化を育ててきた川であり、今も大都市にあつて清澄さを保ち、憩いや交流の場として多くの人に親しまれている貴重な都市空間である。</p> <p>都市の成長戦略の推進や京都の魅力を高めるため、この鴨川が持つポテンシャルを最大限活かし、更なる魅力の向上を目指したまちづくりを進める必要がある。</p> <p>令和5年8月に行われた「京都市長と京都府知事との懇談会」では、安心・安全な河川空間づくりと一体となった鴨川の魅力向上に向けたまちづくりを進めるため、三条～四条で、公民連携による社会実験などに取り組んでいくことを確認した。</p> <p>また、令和5年8月には四条大橋北側で、令和6年1月には補修・修景が完了した三条大橋南側で、各々夜間景観づくりの実証実験を実施した。2月には、トークセッションを行ったところである。今後とも、こうした取組等を通じ、鴨川を中心としたまちづくりの展開に向けて機運醸成を図っていく必要がある。</p>			
<p>【事業概要】</p> <p>本事業では、鴨川を中心としたまちづくりを府市協調、公民連携で展開することで、鴨川のみならず、京都の魅力創出を図り、住んでよし、訪れてよし、働いてよしの都市空間の形成を実現していく。</p> <p>その実現に向け、「鴨川魅力向上プロジェクト」として、三条～四条の鴨川やその周辺地域において、地域とも連携した活動などを企画し、当取組の機運醸成を図るとともに、官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築などに繋げていく。併せて、夜間景観づくり等の社会実験を実施し、効果検証を図りながら、今後、鴨川を中心とした地域が安心・安全で、その魅力を向上させるような取組を推進していく。</p>			
<p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の機運醸成 ・エリアプラットフォームなどの検討 ・夜間景観づくりや鴨川周辺の公有地等を活用した社会実験の企画・実施と検証 ・周辺地域と連携した活動などの企画・実施と検証 			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			